

2020(令和2)年度調査研究報告

2020(令和2)年度 修学旅行の実施状況並びに 「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について

関東地区・東海地区・近畿地区
各修学旅行委員会集計・比較・考察

調査時期:2020(令和2)年11月～2021(令和3)年1月

〔本調査は上記の期間に実施したため、実際の実施状況とは異なる部分があります。〕

2021(令和3)年3月 発行

公益財団法人 全国修学旅行研究協会

目 次

I	調査研究のねらい	1
II	2020(令和2)年度の修学旅行について	2
1	調査について	2
	(1) 調査対象	
	(2) 調査時期	
	(3) 調査内容	
	(4) 調査・集計方法	
	(5) 回答状況	
2	実施概況	3
	(1) 実施時期	3
	(2) 実施方面	5
	(3) 生徒一人あたりの旅行費用平均額	8
	(4) 生徒一人あたりの体験活動費用平均額	9
	(5) 生徒一人あたりの交通費平均額	10
	(6) 生徒一人あたりの宿泊費用平均額	10
	(7) 生徒一人あたりの旅行費用平均額(方面別)	11
	(8) お小遣い平均額	11
	(9) 不参加生徒の有無	11
	(10) 不参加生徒理由別内訳	11
3	修学旅行実施に係る変更等について	12
	(1) 修学旅行実施に向けての検討・変更について	12
	(2) 修学旅行を中止した学校の代替活動について	14
	(3) 変更(中止・延期)の最終判断の基準について	15
	(4) 費用の増減について	15
	(5) キャンセル料が発生した項目について	16
	(6) キャンセル料の負担方法	16
	(7) 修学旅行を実施していくために	17
	【参考】本年度の修学旅行実施に係り、特に工夫、配慮した点並びに 意見・要望等(自由記述抜粋)	18
III	まとめ	20

I 調査研究のねらい

昭和33年の学習指導要領の改訂で、修学旅行が教育課程に明確に位置付けられて以来、その目標のとおり、生徒の心に一生色褪せることのない思い出と、社会性や人としての生き方、豊かな感性といった多くの教育的価値をこれまで育んできた。そして、そのことが普段の学校における学習活動や人間関係を深める教育活動等をも充実・発展させてきた。

同時に、これまで経験したことのない変化の速さと技術革新により生徒が身に付けるべき資質や能力も大きく変わろうとしている。今回の学習指導要領改訂で初めて付された前文においては、「これからの学校には、(中略)一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、(中略)多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることができるようにすることが求められる」と明言した。その上で、今、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「何ができるようになったか」という視点を、学校教育全体の重要な方向性として問いかけている。

それは、教育的価値の極めて高い修学旅行についても、その意義と可能性について、改めて検証することの重要性を示唆しているとも言える。

そうした状況を受け止めながら、今年度も、実施状況調査(実施時期、方面、費用等)と、研究主題に関わる課題調査として、「学びの集大成を図る修学旅行の取組について」の調査を実施しようとして計画していたところ、今回の新型コロナウイルス感染拡大が瞬く間に広がっていった。

実施状況調査については、通常、三地区(関東、東海、近畿)の修学旅行がほぼ終わる7月に実施し、基本的な項目として実施時期、日数、方面、訪問地、旅行費用、体験活動費用、不参加生徒数について集計・考察を行っている。旅行費用や不参加生徒数についてはそのデータが直接、修学旅行に関わる国庫補助陳情にも関係しており、昭和34年以来、地道な調査行ってきた。

しかしながら、今年度は7月の時点で修学旅行を実施できた学校が殆どなく、11月から12月に延期せざるを得なくなった。更に、12月から主要都市において第3波の感染拡大、そして、年明けの緊急事態宣言の再発令等でその後に計画をしていた多くの学校が中止になるなどデータに変更が生じてしまう結果となった。

本来ならば、より正確なデータを収集してからの集計・考察という考え方も当然あると考える。

その一方で、若干のデータの誤差があるにせよ、新型コロナウイルス感染拡大の中で、学校がいかに努力を重ね、葛藤しながら実施を目指してきたかと言う大きな足跡をとどめることも価値があると判断した次第である。精確な調査・考察は次年度も継続することを明言して、ご理解頂けたらと願うばかりである。

ここ数年の状況を見てみると、災害の形や事故・事件等の発生は多岐にわたり、これまでの経験や知識だけでは十分対応できない事象も増えてきている。修学旅行にとって「教育性の充実」、「安全性の確保」、「経済性の適正化」はいずれも重要な項目であるが、「安全性の確保」については不可欠の要素である。今回のコロナ禍では多くのマイナス面とともに、様々な課題が見えてきたという点では、プラス面も多々あると考えたい。今後も地道な調査と分析・研究を進めながら、これからの時代に求められる修学旅行の、その環境づくりの一助となればと願っている。

II 2020(令和2年)度の修学旅行について

1 調査について

(※本調査は、2020(令和2)年11月から、2021(令和3)年1月までに実施したため、それ以降の変更に
ついては含まれていません。)

- (1)調査対象 以下の三地区の公立中学校を対象
 関東地区5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)
 東海地区3県(愛知・三重・岐阜)※愛知県は名古屋市除く
 近畿地区2府4県(滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・和歌山)
- (2)調査時期 2020(令和2)年11月～2021(令和3)年1月に調査実施
 ※2021(令和3)年1月8日発令の緊急事態宣言前の調査となる
- (3)調査内容 ①修学旅行の実施時期・日数・旅行方面・旅行費用・不参加生徒数
 ②新型コロナウイルス感染症による、修学旅行への影響について
 ※調査時期以降の実施予定、または中止の学校を含む
- (4)調査・集計方法 ①関東地区・東海地区はアンケート用紙、近畿地区はオンラインで回答
 ②表中の「割合」については小数点第二位以下四捨五入しているため、
 表示上の割合の合計が100%とならないものもある
- (5)回答状況

三地区	関東	東海	近畿	合計
調査校数	1,315	627	1,284	3,226
回答校数	1,315	627	1,175	3,117
回答率	100.0%	100.0%	91.5%	96.6%
集計対象校数	1,314	627	1,158	3,099
実施(予定)校数	415	602	991	2,008

集計対象校数は回答校数から特別支援学校・調査時点で本年度実施予定の無い学校等を除いた数
 実施(予定)校数は調査時点で今年度実施(予定含む)した学校数

各地区の詳細

関東地区	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
調査校数	219	150	163	414	369	1,315
回答校数	219	150	163	414	369	1,315
回答率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※連合は1校とする

東海地区	愛知	三重	岐阜	合計
調査校数	299	150	178	627
回答校数	299	150	178	627
回答率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

近畿地区	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	合計
調査校数	100	170	101	459	341	113	1,284
回答校数	84	158	97	406	328	102	1,175
回答率	84.0%	92.9%	96.0%	88.5%	96.2%	90.3%	91.5%

2 実施概況

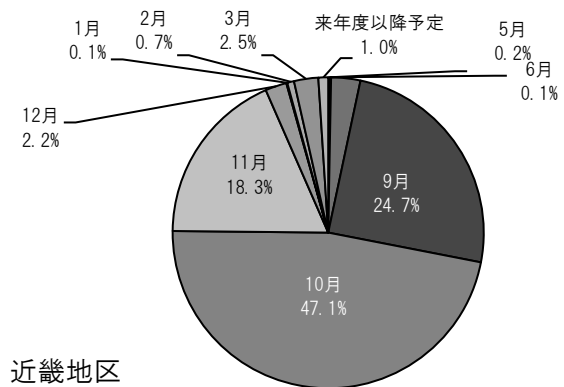
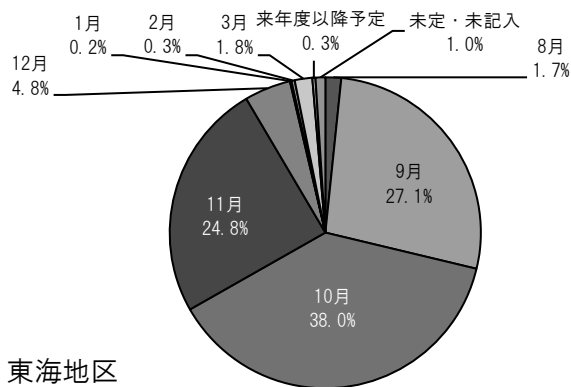
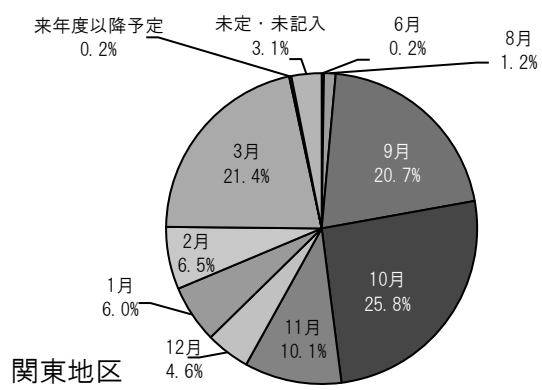
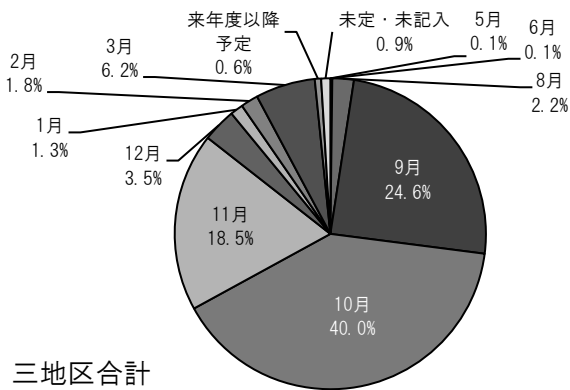
(1)実施時期(校数とその割合)

三地区	関東	東海	近畿	合計	割合
4月	0	0	0	0	0.0%
5月	0	0	2	2	0.1%
6月	1	0	1	2	0.1%
7月	0	0	0	0	0.0%
8月	5	10	30	45	2.2%
9月	86	163	245	494	24.6%
10月	107	229	467	803	40.0%
11月	42	149	181	372	18.5%
12月	19	29	22	70	3.5%
1月	25	1	1	27	1.3%
2月	27	2	7	36	1.8%
3月	89	11	25	125	6.2%
来年度以降予定	1	2	10	13	0.6%
未定・未記入	13	6	0	19	0.9%
合計校数	415	602	991	2,008	100.0%

関東地区	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
4月						0	0.0%
5月						0	0.0%
6月					1	1	0.2%
7月						0	0.0%
8月		4			1	5	1.2%
9月	3	48	4	4	27	86	20.7%
10月	7	35	30	9	26	107	25.8%
11月	7	5	6	18	6	42	10.1%
12月				18	1	19	4.6%
1月				25		25	6.0%
2月	1			26		27	6.5%
3月		3	1	74	11	89	21.4%
来年度以降予定				1		1	0.2%
未定・未記入	6			5	2	13	3.1%
合計校数	24	95	41	180	75	415	100.0%

東海地区	愛知	三重	岐阜	合計	割合
4月				0	0.0%
5月				0	0.0%
6月				0	0.0%
7月				0	0.0%
8月	10			10	1.7%
9月	97	46	20	163	27.1%
10月	94	47	88	229	38.0%
11月	78	39	32	149	24.8%
12月	14	3	12	29	4.8%
1月			1	1	0.2%
2月		2		2	0.3%
3月	6	5		11	1.8%
来年度以降予定		2		2	0.3%
未定・未記入		6		6	1.0%
合計校数	299	150	153	602	100.0%

近畿地区	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	合計	割合
4月							0	0.0%
5月					2		2	0.2%
6月				1			1	0.1%
7月							0	0.0%
8月		6	2	8	13	1	30	3.0%
9月	4	27	18	103	75	18	245	24.7%
10月	43	50	33	152	135	54	467	47.1%
11月	7	23	12	59	62	18	181	18.3%
12月		4		12	4	2	22	2.2%
1月						1	1	0.1%
2月		3	1	3			7	0.7%
3月	6	6	5	1	7		25	2.5%
来年度以降予定		7	1	1		1	10	1.0%
未定・未記入							0	0.0%
合計校数	60	126	72	340	298	95	991	100.0%



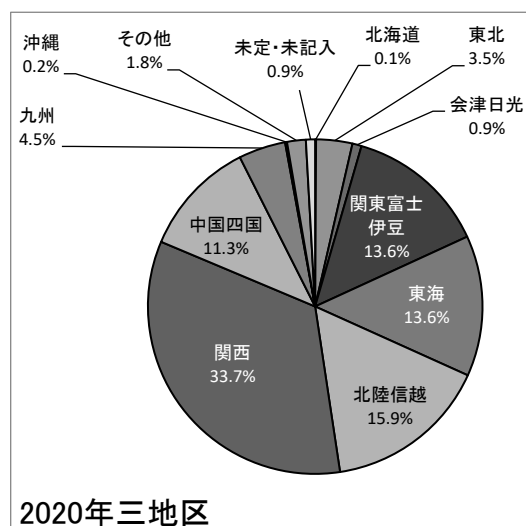
実施時期の状況

・2020年3月から急速に拡大した新型コロナウイルス感染症により、3地区とも春の出発はほぼ延期または中止となった。その後、8月からは延期した学校が順次出発し、11月までに関東地区で240校、東海地区が551校、近畿地区では923校と、合計1,714校が実施した。11月の調査時点では2021年3月までに3地区合わせて2,008校が実施する予定であった。

・12月以降、再度の感染拡大が全国的に発生し、主要都府県での緊急事態宣言の発令もあり、1月以降に予定していた学校については関東地区を中心に中止となった学校が多数ある。尚、今回の調査は11月に実施しているため、その時点での予定となっている。

(2)実施方面(校数と割合)

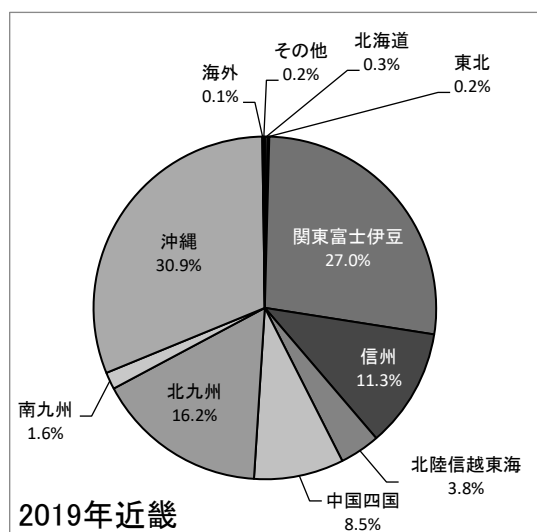
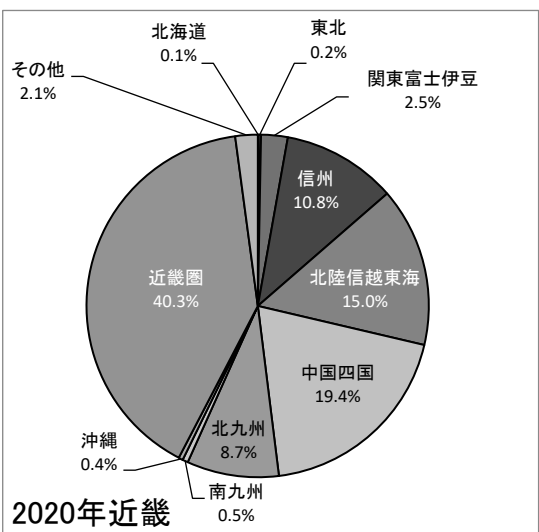
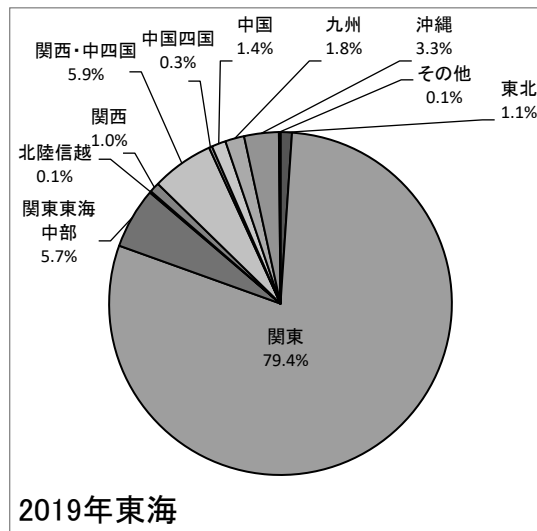
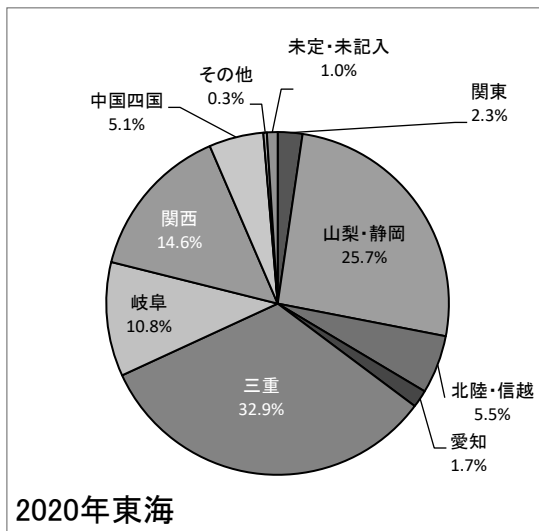
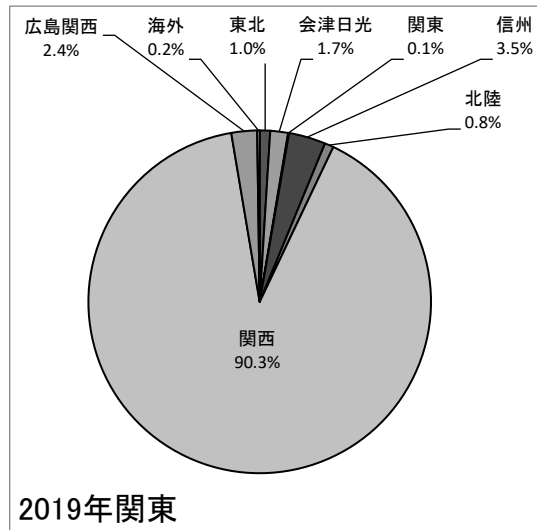
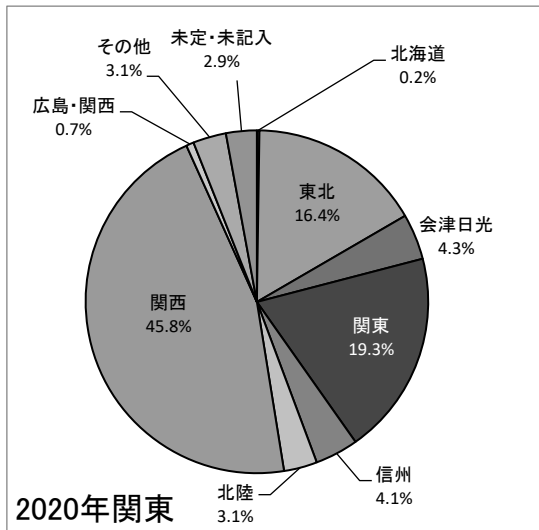
三地区	関東	東海	近畿	合計	割合
北海道	1		1	2	0.1%
東北	68		2	70	3.5%
会津日光	18			18	0.9%
関東富士伊豆	80	169	25	274	13.6%
東海		273		273	13.6%
北陸信越	30	33	256	319	15.9%
関西	190	88	399	677	33.7%
中国四国	3	31	192	226	11.3%
九州			91	91	4.5%
沖縄			4	4	0.2%
その他	13	2	21	36	1.8%
未定・未記入	12	6		18	0.9%
合計校数	415	602	991	2,008	100.0%



関東地区	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
北海道				1		1	0.2%
東北	2	53	10	1	2	68	16.4%
会津日光	2	8	4		4	18	4.3%
関東	7	10	16	5	42	80	19.3%
信州		2	2		13	17	4.1%
北陸	6			5	2	13	3.1%
関西		18	1	162	9	190	45.8%
広島・関西				2	1	3	0.7%
その他	1	3	8		1	13	3.1%
未定・未記入	6	1		3	2	12	2.9%
合計校数	24	95	41	179	76	415	100.0%

東海地区	愛知	三重	岐阜	合計	割合
関東	13	1		14	2.3%
山梨・静岡	143	6	6	155	25.7%
北陸・信越	17	2	14	33	5.5%
愛知	7		3	10	1.7%
三重	69	76	53	198	32.9%
岐阜	2	1	62	65	10.8%
関西	41	33	14	88	14.6%
中国四国	5	25	1	31	5.1%
その他	2			2	0.3%
未定・未記入		6		6	1.0%
合計校数	299	150	153	602	100.0%

近畿地区	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	合計	割合
北海道				1			1	0.1%
東北		1		1			2	0.2%
関東富士伊豆	2	5		12	4	2	25	2.5%
信州		32	3	61	11		107	10.8%
北陸信越東海	26	12	11	51	37	12	149	15.0%
中国四国		31	13	80	62	6	192	19.4%
北九州	1	18	4	34	22	7	86	8.7%
南九州		1		2	2		5	0.5%
沖縄			1	3			4	0.4%
近畿圏	29	25	40	90	157	58	399	40.3%
その他	2	1		5	3	10	21	2.1%
合計校数	60	126	72	340	298	95	991	100.0%



実施方面

【関東地区】

関西(広島含む)方面の変動

(27年) (28年) (29年) (30年) (31・令和元年) (令和2年)
1,105校(88.1%)⇒ 1,148校(90.7%)⇒ 1,218校(92%)⇒ 1,229校(92.8%)⇒ 1,221校(92.7%)⇒ 193校(46.5%)

東北・会津日光・信州方面の変動

	(22年)	(23年)	(27年)	(28年)	(29年)	(30年)	(31・令和元年)	(令和2年)
東北	21校⇒	6校⇒	14校⇒	12校⇒	12校⇒	12校⇒	13校⇒	68校(16.4%)
会津日光	43校⇒	2校⇒	22校⇒	23校⇒	23校⇒	24校⇒	22校⇒	18校(4.3%)
信州	60校⇒	107校⇒	72校⇒	64校⇒	50校⇒	50校⇒	46校⇒	17校(4.1%)

・例年、関東地区は9割以上が関西方面に行っているが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて実施(予定)校の46%に留まった。その分、東北、会津日光、信州方面への方面変更が増え、特に感染者が少なかった東北方面が増えた。

【東海地区】

関東・中国四国・関西・沖縄方面の変動

	(22年)	(23年)	(27年)	(28年)	(29年)	(30年)	(31・令和元年)	(令和2年)
関東	554校⇒	175校⇒	625校⇒	606校⇒	623校⇒	631校⇒	612校⇒	169校(28.0%)
中国四国	50校⇒	154校⇒	22校⇒	17校⇒	12校⇒	10校⇒	12校⇒	31校(5.1%)
関西	18校⇒	306校⇒	44校⇒	40校⇒	23校⇒	50校⇒	50校⇒	88校(14.6%)
沖縄	28校⇒	0校⇒	26校⇒	27校⇒	23校⇒	26校⇒	24校⇒	0校

・東海地区も例年、関東方面(東京・千葉を中心)に8割以上の学校が行っているが、今年は感染者の数が多かった東京を避けて他の地域での実施が増えた。また、沖縄も感染拡大と遠距離等の理由から実施校は0となった。一方、県や教育委員会の方針や指導もあり、県内や近隣地域での実施が増加し、東海3県内を目的地とした実施校が273校あった。

【近畿地区】

関東富士伊豆、中国四国、九州、沖縄方面の変動

	(22年)	(23年)	(27年)	(28年)	(29年)	(30年)	(31・令和元年)	(令和2年)
関東富士伊豆	347校⇒	61校⇒	295校⇒	349校⇒	309校⇒	314校⇒	319校⇒	25校(2.5%)
中国四国	21校⇒	46校⇒	32校⇒	101校⇒	78校⇒	100校⇒	100校⇒	192校(19.4%)
九州	140校⇒	345校⇒	189校⇒	94校⇒	213校⇒	215校⇒	210校⇒	91校(9.2%)
沖縄	286校⇒	399校⇒	302校⇒	305校⇒	309校⇒	348校⇒	365校⇒	4校(0.4%)

・近畿地区においても、感染者数が多い地域を避けての実施となり、結果的に関東と沖縄は激減した。近隣地域での実施が増え、近畿圏内での実施校は399校となった。

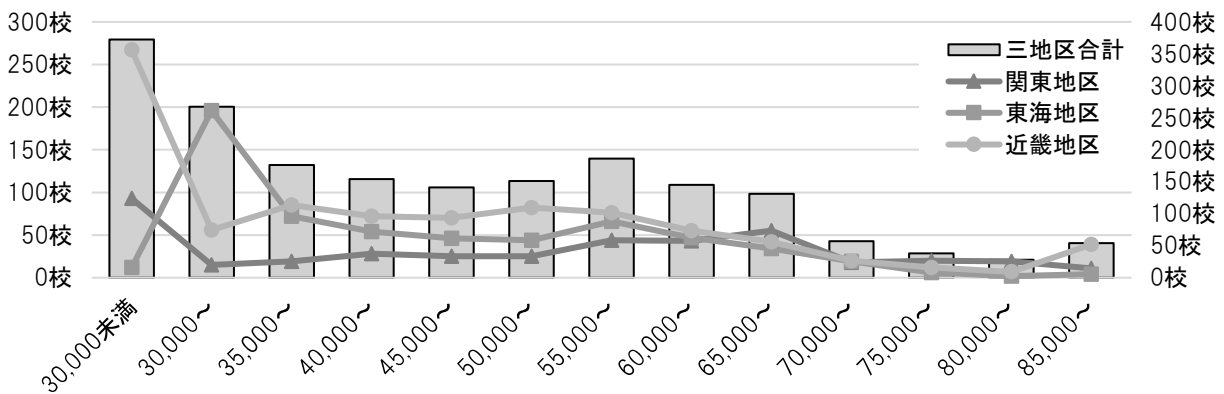
・今年度の三地区での実施方面は共通して感染者数が多い地域を避け、地域内や比較的近隣地域での実施となった。日程変更と併せて、方面変更により何とか実施したいと願う学校の苦勞が窺える。その中でも感染拡大が最も深刻であった一都三県(東京・埼玉・神奈川・千葉)やくり返し発令された緊急事態宣言の影響等により、東海地区や近畿地区と比べても関東地区は中止した学校の割合が最も高くなった。

(3) 生徒一人あたりの旅行費用平均額(校数と割合)

旅行費用(円)	関東	東海	近畿	合計	割合
30,000未満	93	12	455	560	27.9%
30,000～	15	196	111	322	16.0%
35,000～	19	72	96	187	9.3%
40,000～	28	54	80	162	8.1%
45,000～	25	46	58	129	6.4%
50,000～	25	44	60	129	6.4%
55,000～	44	66	41	151	7.5%
60,000～	43	47	29	119	5.9%
65,000～	55	34	12	101	5.0%
70,000～	18	19	8	45	2.2%
75,000～	20	6	2	28	1.4%
80,000～	19	2	3	24	1.2%
85,000～	11	4	36	51	2.5%
合計校数	415	602	991	2,008	100.0%

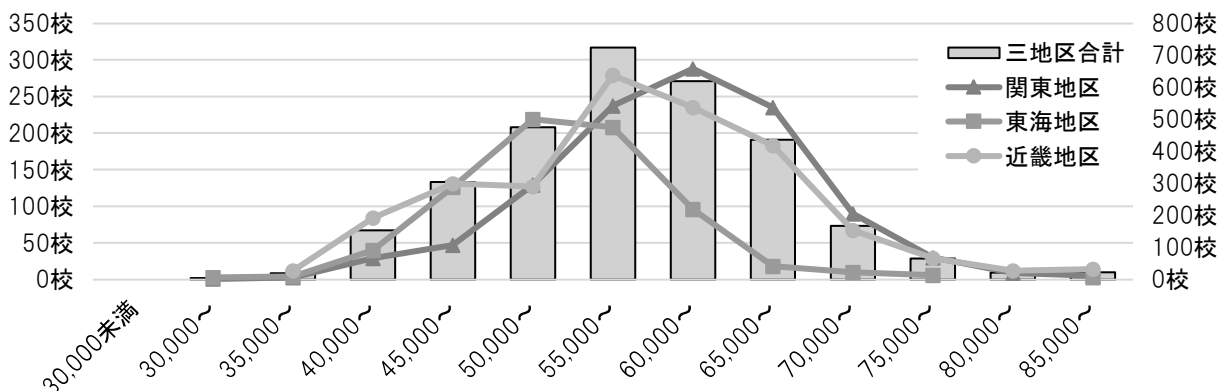
※実施校(予定含む)のみ

2020年度 地区別旅行費用平均(一人あたり)



※合計校数は右目盛り

2019年度 地区別旅行費用平均(一人あたり)



生徒一人あたりの旅行費用平均額

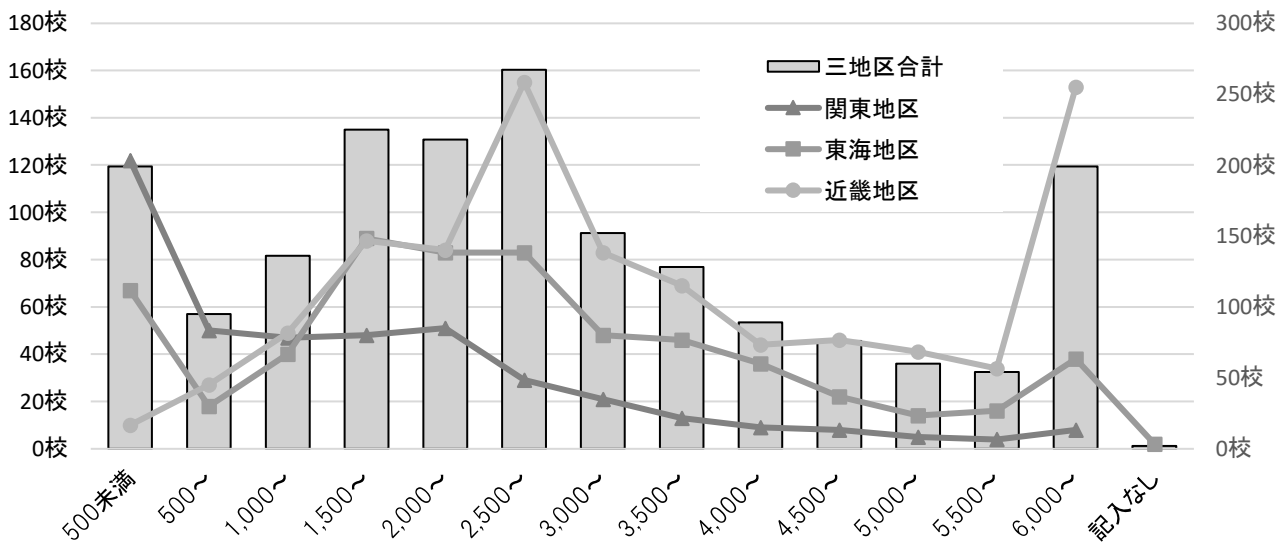
・例年であれば50,000円から70,000円程度の金額が最も多くなるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で期間の短縮や方面変更(近隣地域での実施)により30,000円未満が最も多くなっている。また、GoToキャンペーンを利用した学校では費用が低くなっている。

(4) 生徒一人あたりの体験活動費用平均額(校数と割合)

体験活動費(円)	関東	東海	近畿	合計	割合
1,000未満	122	67	43	232	11.6%
1,000～	50	18	57	125	6.2%
2,000～	47	40	94	181	9.0%
3,000～	48	89	91	228	11.4%
4,000～	51	83	171	305	15.2%
5,000～	29	83	95	207	10.3%
6,000～	21	48	78	147	7.3%
7,000～	13	46	49	108	5.4%
8,000～	9	36	52	97	4.8%
9,000～	8	22	49	79	3.9%
10,000～	5	14	44	63	3.1%
11,000～	4	16	28	48	2.4%
12,000～	8	38	140	186	9.3%
記入なし		2		2	0.1%
合計校数	415	602	991	2,008	100.0%

※近畿地区は入場料等も含む

地区別体験活動費用平均(一人あたり)



※合計校数は右目盛り

体験活動費用

・もともと三地区の生徒一人あたりの体験活動費は幅広く分布しており、殆どピークと言えるものはない。2020年度も新型コロナウイルス感染症拡大の中にあってもその傾向は変わらない。

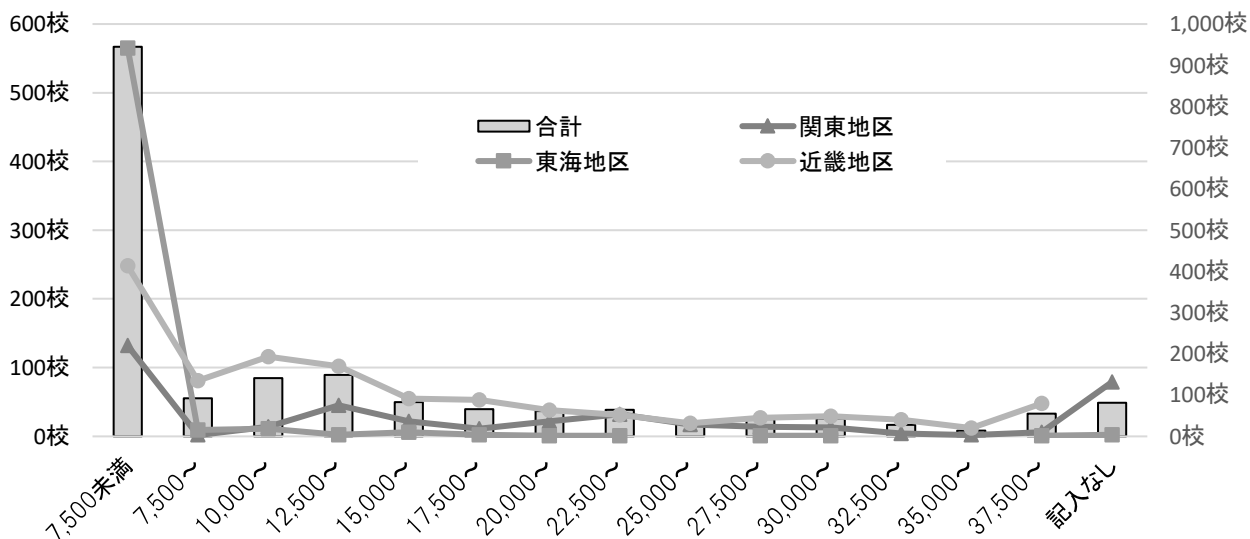
・6,000円以上の体験活動については、様々な活動(自然体験や社会体験)に民泊費用、入場料が含まれることがある。

(5) 生徒一人あたりの交通費平均額(校数と割合)

交通費(円)	関東	東海	近畿	合計	割合
7,500未満	132	565	266	963	48.0%
7,500～	2	9	104	115	5.7%
10,000～	14	11	130	155	7.7%
12,500～	45	2	114	161	8.0%
15,000～	22	6	64	92	4.6%
17,500～	11	2	57	70	3.5%
20,000～	22	1	46	69	3.4%
22,500～	32	1	38	71	3.5%
25,000～	17		22	39	1.9%
27,500～	14	1	29	44	2.2%
30,000～	13	1	31	45	2.2%
32,500～	4		27	31	1.5%
35,000～	2		12	14	0.7%
37,500～	6	1	51	58	2.9%
記入なし・未定	79	2		81	4.0%
合計	415	602	991	2,008	100.0%

※近畿地区はバス代も含む

地区別交通費平均(一人あたり)



※合計校数は右目盛り

生徒一人あたりの交通費平均額

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で期間の短縮や近隣地域での実施により7,500円未満の学校が約50%となった。また、GoToキャンペーンや受入地域の支援事業等により費用が軽減された学校もある。

(6) 生徒一人あたりの宿泊費用平均額(校数と割合)

宿泊費用(円)	関東	東海	近畿	合計	割合
10,000未満	42	17	59	118	5.9%
10,000～	14	33	183	230	11.5%
15,000～	58	133	244	435	21.7%
20,000～	89	56	161	306	15.2%
25,000～	105	131	63	299	14.9%
30,000～	31	49	12	92	4.6%
35,000～	6	13	12	31	1.5%
宿泊無し	70	170	257	497	24.8%
合計	415	602	991	2,008	100.0%

※1泊のみの学校も含む

(7) 生徒一人あたりの旅行費用平均額(方面別/円)

方面	関東	東海	近畿
北海道	60,000		67,608
東北	55,724		65,253
会津日光	23,855		
関東富士伊豆	24,511	56,146	43,710
東海		20,582	
北陸信越	53,784	39,977	71,321
関西	63,885	38,554	19,258
中国四国	60,626	58,159	37,841
九州		76,588	61,116
沖縄			31,235
その他	37,990		27,020
未定・未記入	25,627		
平均額	51,194	37,239	30,744

(8) お小遣い平均(生徒一人あたり上限額/円)

上限額平均	関東	東海	近畿
2018年	13,409	13,285	9,993
2019年	13,228	13,234	
2020年	12,154	7,916	7,478
前年比	▲ 1,074	▲ 5,318	▲ 2,515

(9) 不参加生徒の有無

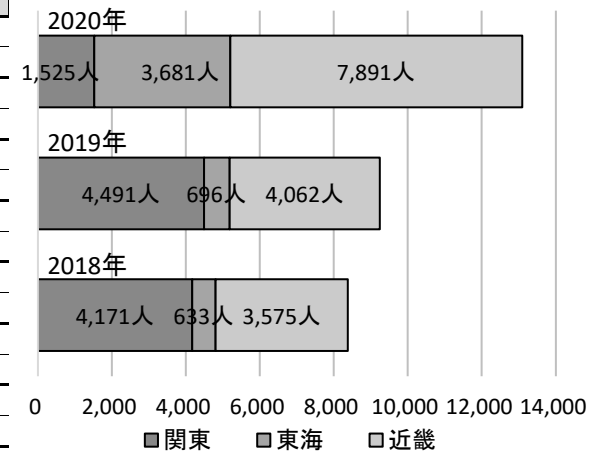
	関東	東海	近畿	合計	割合
いる(校数)	236	481	921	1,638	81.6%

校・人

(10) 不参加生徒理由別内訳(延校数と生徒数・複数回答)

	関東	東海	近畿	合計
合計	236	481	921	1,638
学校数	236	481	921	1,638
生徒数	1,525	3,681	7,891	13,097
経済的理由	12	33	17	62
学校数	12	33	17	62
生徒数	20	68	63	151
不登校	208	432	804	1,444
学校数	208	432	804	1,444
生徒数	812	1,869	3,655	6,336
疾病	63		236	299
学校数	63		236	299
生徒数	92		442	534
部活動等	7		25	32
学校数	7		25	32
生徒数	14		41	55
個人活動	17		47	64
学校数	17		47	64
生徒数	27		79	106
保護者判断	110	279	335	724
学校数	110	279	335	724
生徒数	427	1,871	1,774	4,072
その他	39		203	242
学校数	39		203	242
生徒数	125		1,003	1,128

校・人



※内訳不明の学校があるため、合計数は一致しない

経済的理由による不参加

・経済的理由による不参加生徒数は三地区合計で151名と、昨年の289名と比べて少なくなっているが、修学旅行自体を中止した学校があるので一概に比較はできない。今年度の新型コロナウイルス感染症拡大の影響の特色として保護者判断として4,072名の生徒が参加を控えたことがあげられる。

3 修学旅行実施に係る変更等について

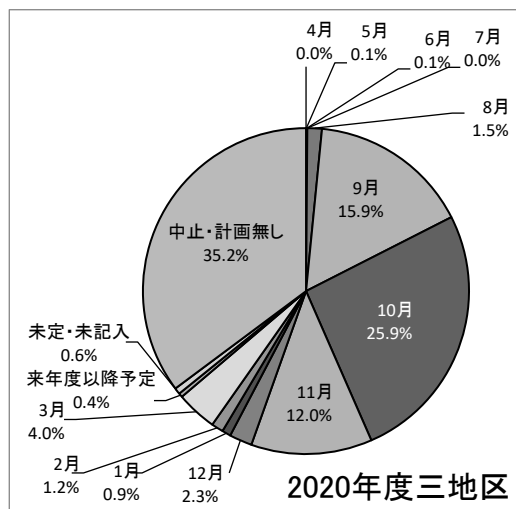
(1) 修学旅行実施に向けての検討・変更について(複数回答)

検討・変更内容	校				
	関東	東海	近畿	合計	割合
当初の予定(行程)通り実施	64	5	22	91	2.9%
検討中	13	1	3	17	0.5%
期日を延期	1,313	589	1,107	3,009	97.1%
期間を変更	173	380	564	1,117	36.0%
方面を変更	204	595	780	1,579	51.0%
中止した	899	25	167	1,091	35.2%

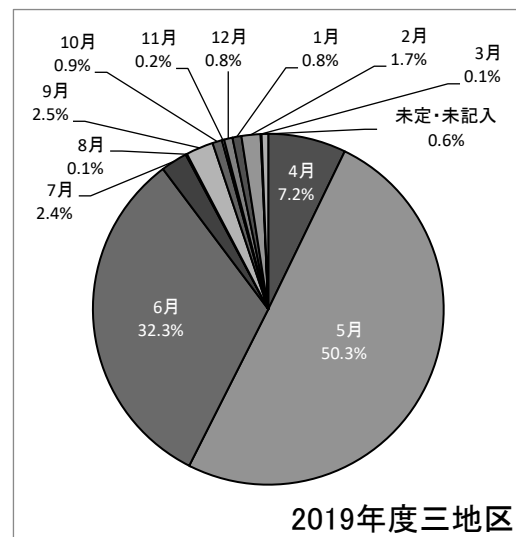
修学旅行実施に向けての検討・変更について

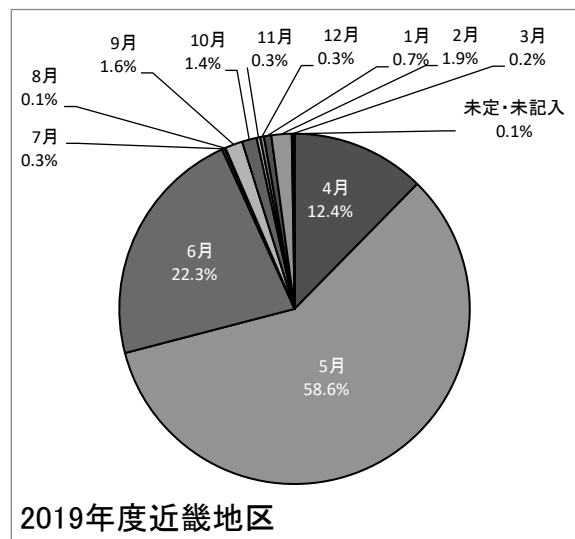
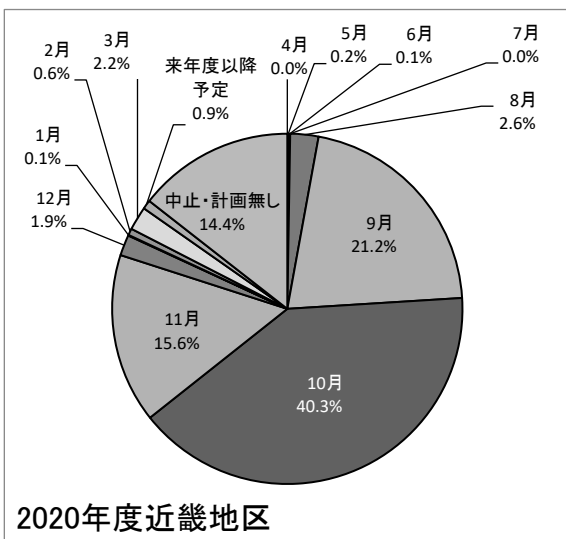
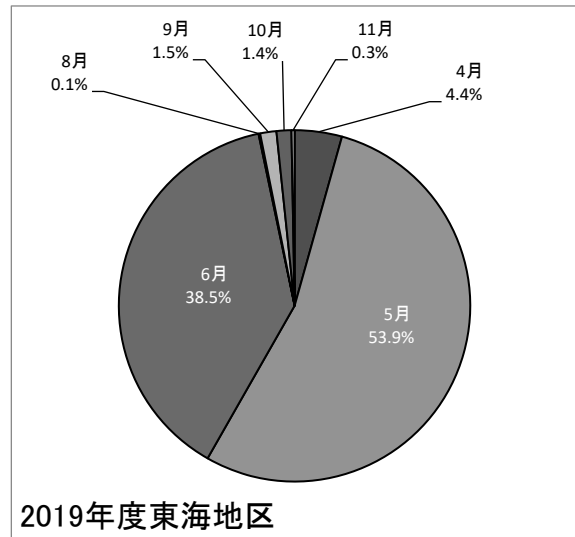
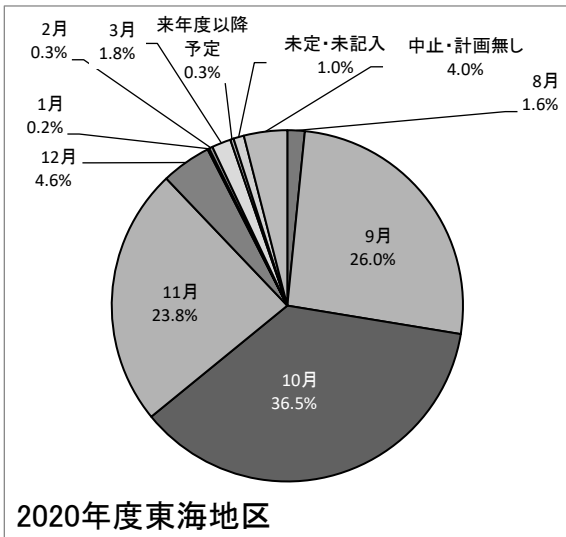
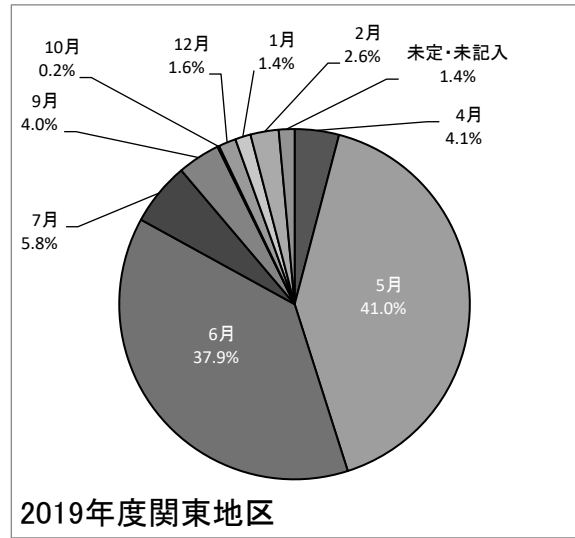
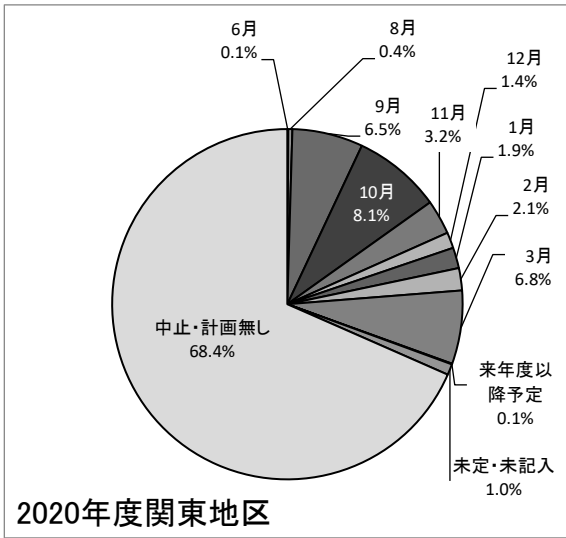
・関東、近畿地区とも期日を延期しての実施した(する)が一番多くなっている。僅差ではあるが東海地区は方面変更による実施が一番多くなった。それぞれの地域、学校によって様々な状況があったと思われるが、何とか修学旅行を実施したいという強い意向が伝わってくる。感染者数の関係もあり、関東地区は中止した学校が他地区と比べて多くなっている。

2020年度	校				
	関東	東海	近畿	合計	割合
4月			0	0	0.0%
5月			2	2	0.1%
6月	1		1	2	0.1%
7月			0	0	0.0%
8月	5	10	30	45	1.5%
9月	86	163	245	494	15.9%
10月	107	229	467	803	25.9%
11月	42	149	181	372	12.0%
12月	19	29	22	70	2.3%
1月	25	1	1	27	0.9%
2月	27	2	7	36	1.2%
3月	89	11	25	125	4.0%
来年度以降予定	1	2	10	13	0.4%
未定・未記入	13	6		19	0.6%
中止・計画無し	899	25	167	1,091	35.2%
合計校数	1,314	627	1,158	3,099	100.0%



2019年度	校				
	関東	東海	近畿	合計	割合
4月	54	32	146	232	7.2%
5月	538	395	691	1,624	50.3%
6月	498	282	263	1,043	32.3%
7月	76		3	79	2.4%
8月	2	1	1	4	0.1%
9月	52	11	19	82	2.5%
10月	2	10	16	28	0.9%
11月	1	2	4	7	0.2%
12月	21		4	25	0.8%
1月	19		8	27	0.8%
2月	34		22	56	1.7%
3月	1		2	3	0.1%
未定・未記入	19		1	20	0.6%
合計校数	1,317	733	1,180	3,230	100.0%





期日の延期について

・今回の新型コロナウイルス感染症拡大により、三地区とも共通に春の出発は延期または中止となった。しかしその後の状況(対応)にはその地区の差が見られた。関東地区は早い段階から中止を決定する学校もあり、市町村単位での決定も少なくなかった。これは感染者が極めて多かった一都三県(東京・埼玉・神奈川・千葉)の学校はもちろんのこと、隣接している県の学校にも影響が大きかった。

・一方、東海地区は感染がなかなか収束しない中で、県内や隣接地域での実施に力点を置いたことが特徴と言える。同様に近畿地区でもそのような対応が見られた。両地区はコンパクトに秋に実施した学校が多く見られた。関東地区は目的地の90%以上が関西方面ということで宿泊施設の受容数の関係もあり、秋だけの実施では難しく、3月までの調整となった。

期間を短縮した学校数について

期間を変更	関東	東海	近畿	合計	割合
一泊二日に変更	93	209	300	602	19.4%
日帰りに変更	76	171	255	502	16.2%
その他	4		9	13	0.4%
記入なし				0	0.0%

期間の変更について

・期間の変更をした学校については、「日帰り」よりも「一泊二日」に変更した学校が多くなっている。

(2) 修学旅行を中止した学校の代替活動について(複数回答)

	関東	東海	近畿	合計	割合
実施しない	148	12	45	205	6.6%
検討中	192	5	14	211	6.8%
実施する(した)	539	11	108	658	21.2%
未回答	20		0	20	0.6%

※代替行事を複数回検討している学校あり

(補足) 修学旅行の内容変更に伴う追加行事について

	関東	東海	近畿	合計	割合
検討中	13	9		22	0.7%
実施する(した)	23	136		159	5.1%

※近畿地区未調査

代替行事 実施内容(抜粋)

貸切バスでの日帰り旅行(県内、近接県への観光施設、テーマパーク、世界遺産等)

校内での代替行事

- ・VRを使用したバーチャル修学旅行
- ・校内宿泊
- ・伝統工芸品等制作体験
- ・オンラインキャリア学習
- ・被爆体験朗読会

その他

- ・テーブルマナー体験
- ・航空機を利用したチャーター飛行
- ・ドローン撮影
- ・屋外スポーツ体験(カヌー、スキー等)
- ・芸術鑑賞

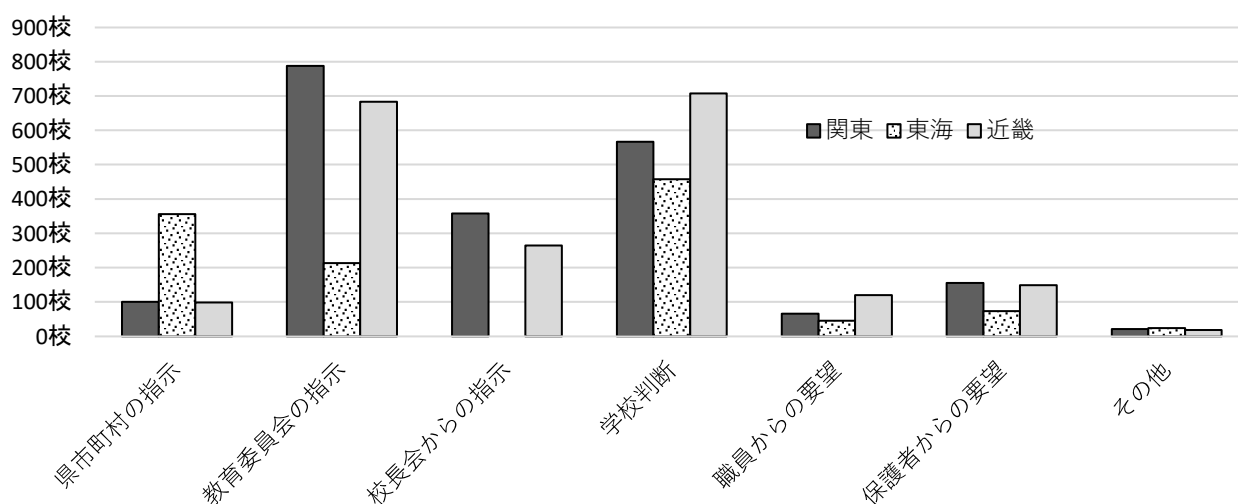
修学旅行を中止した学校の代替活動について

・当然のことながら、中止を決定した学校数が一番多い関東地区で代替活動を実施した校数が最も多い。
また、実施しないと決定した学校も他地区と比べて多くなっている。

(3) 変更(中止・延期)の最終判断の基準について(複数回答)

	関東	東海	近畿	合計	割合
县市町村の指示	100	356	98	554	17.9%
教育委員会からの指示	788	213	683	1,684	54.3%
校長会からの指示	358	-	264	622	20.1%
学校判断	567	457	707	1,731	55.9%
職員からの要望	66	45	120	231	7.5%
保護者からの要望	155	73	149	377	12.2%
その他	21	24	18	63	2.0%

その他：生徒からの意見・要望、参加同意が規定数を下回った、医師の判断、旅行先の感染状況、学校運営協議会の判断、周辺の学校と歩調を合わせた 等



変更(中止・延期)の最終判断の基準について

・いずれの地区も県・市町村、教育委員会の指示が多いが、関東地区は「教育委員会からの指示」、東海地区は「学校判断」、近畿地区は「職員からの要望」の割合が他地区に比べ多くなっている。
最終判断に到るまでの経緯には、多くの葛藤や悩みがあったことは三地区に共通して言えるであろう。

(4) 費用の増減について(代替行事含む・複数回答)

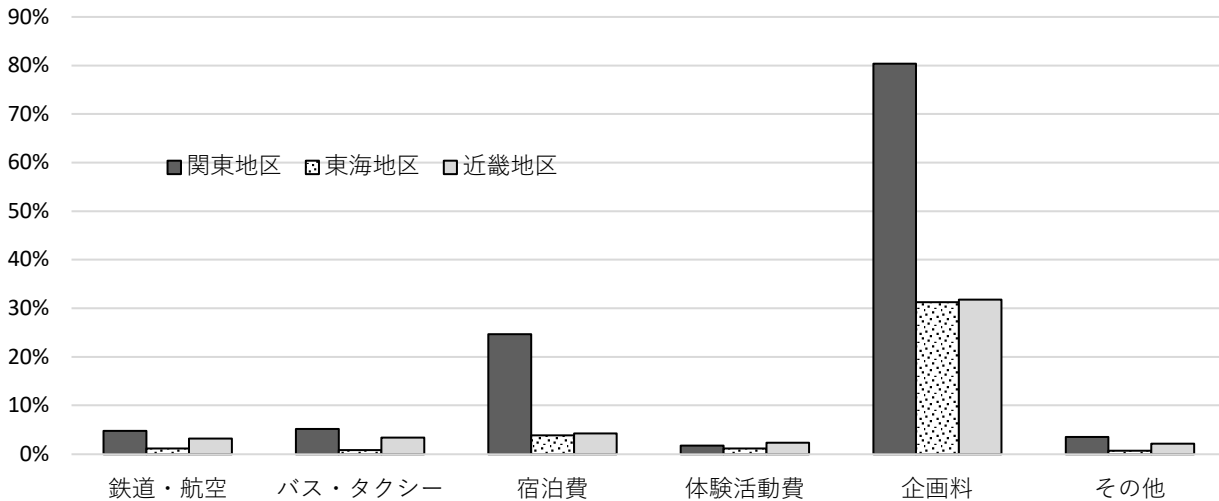
	関東	東海	近畿	合計	割合
上がった	158	-	82	240	
変わらない	332	-	219	551	
下がった	499	-	803	1,302	
不明	-	-	29	29	

※東海地区未調査

(5)キャンセル料が発生した項目について(複数回答)

	校			合計	割合
	関東	東海	近畿		
鉄道・航空	63	7	59	129	4.2%
バス・タクシー	68	5	42	115	3.7%
宿泊費	325	24	52	401	12.9%
体験活動費	23	7	29	59	1.9%
企画料	1,059	196	349	1,604	51.8%
その他	46	4	25	75	2.4%

その他：シルバーガイド料、手数料、弁当代、保険料、荷物輸送費、レンタル品 等



(6)キャンセル料の負担方法(複数回答)

	校			合計	割合
	関東	東海	近畿		
臨時交付金	358	153	114	625	20.2%
政策等活用	-		46	46	1.5%
市町村教委の補助	806		282	1,088	35.1%
学校の補填	14		3	17	0.5%
保護者負担	40	71	27	138	4.5%
その他	69	29	18	116	3.7%

その他：Gotoキャンペーン等の利用、学年費、積立金から充当、PTA後援会費、校区協力金等

キャンセル料の負担方法について

・いずれの地区も地方創生臨時交付金や、市町村教育委員会の補助(この中にも上記交付金を活用しているものも含まれると思われる)を活用していることがわかる。やむを得ず、中止の判断をした学校・地域においてキャンセル料の問題は重くのしかかった。

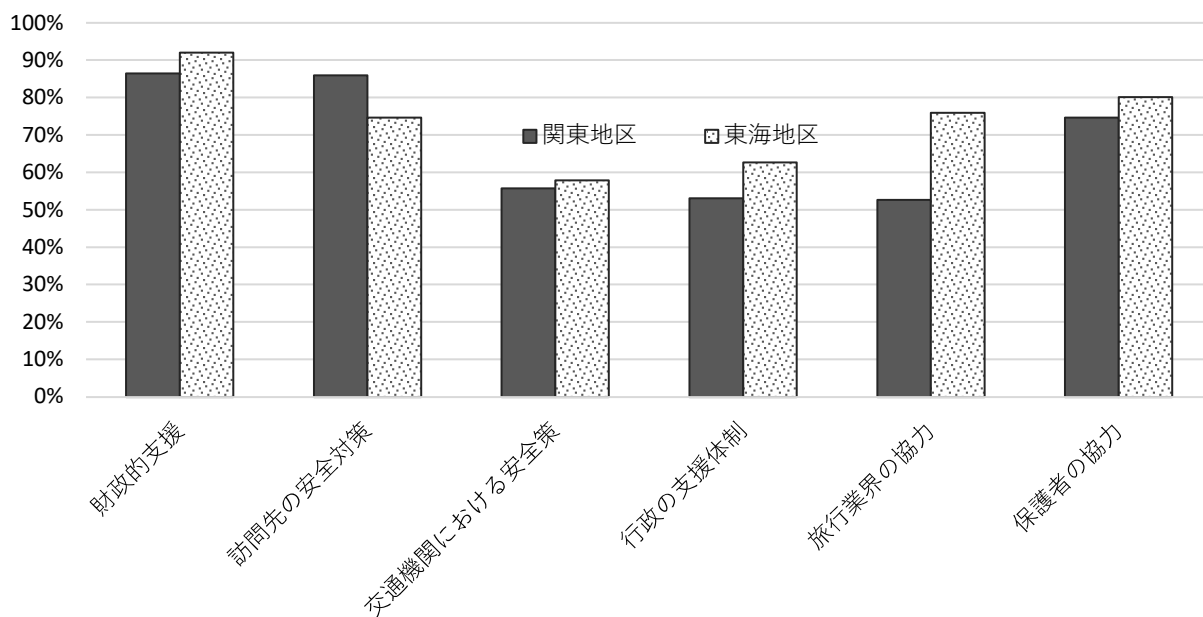
(7) 修学旅行を実施していくために(複数回答)

	校			合計	割合
	関東	東海	近畿		
公的財政的支援	1,139	577		1,716	88.2%
訪問先の安全対策	1,132	468		1,600	82.3%
交通機関における安全策	734	363		1,097	56.4%
行政の支援体制	699	393		1,092	56.1%
旅行業界の協力	694	476		1,170	60.2%
保護者の協力	984	502		1,486	76.4%

※近畿地区未調査

修学旅行を実施していくために

・文部科学省では修学旅行の教育的価値を鑑み、コロナ禍でも中止ではなく、延期での実施をお願いする旨の文書を適宜発出してきた。その主旨については、学校は十分理解しているものの、修学旅行実施のためには、安全確保は不可欠であり、同時に財政的支援と保護者の理解と協力が欠かせないと強く感じている。



【参考】 本年度の修学旅行実施に係り、特に工夫、配慮した点並びに意見・要望等（自由記述抜粋）

1 安全対策について

(1) 移動等に係わるもの

- ・バスの台数を増やしたり、大型のバスにした。
- ・小型のバスに分乗した。
- ・バスを2座席で1人にするなど、座席間隔を空けて座るようにした。
- ・なるべく公共交通機関を利用しないよう、貸し切りバス・タクシーの利用を増やした。
- ・全行程の移動をバスにした。
- ・GoTo トラベルを活用して、バスを倍(5台→10台)に増やした。

(2) 宿泊等に係わるもの

- ・宿泊施設を貸し切り、フロア貸し、一部屋の人数を少なくする、大浴場は使わない、食事は個食とするなどの対策を行った。
- ・宿泊施設と安全体制についてのオンライン協議。
- ・旅行会社と相談し最大の努力を行った。例えば、一人ひとりに消毒シートを配布したり、宿泊部屋の人数を抑え、頭部が近くにならないような寝具の敷き方など。入浴時も分散するように時間を割り振る。食事会場も2部屋に分けるといった配慮をしてもらった。

(3) その他全般

- ・検温確認、換気、手指消毒、マスクの着用。看護師の同行。
- ・保護者会を開いた。家族本人の健康観察を2週間前から実施した。
- ・本校以外の人との接触を避けるため、見学施設、移動バス、遊覧船、昼食会場の全てを貸し切りとした。
- ・正しい情報の入手が難しかった。

2 変更（日程・方面等）について

- ・市町村内中学校との同一歩調。
- ・旅行先の設定を、生徒が発熱した場合に、車両等で帰宅できる距離としたこと。
- ・日帰りでも修学旅行という価値を付けるために新幹線を利用した。(感染症が少ない東北地方を選んだ。)
- ・2回実施。宿泊リスクを抑えるため、日帰り2回とした。
- ・学校医と相談し、アドバイスを受けた上で保護者への説明のうえ、同意を得ながら時期や方面を変更しての実施を検討しつつ、最終的に中止とした。
- ・市町村、各教育委員会の中止の判断が早すぎた気がする。
- ・警戒レベルが引き上がり、往来自粛の制限がかかりそうな東京都を通過しないコースを考えた。
- ・2年生での実施予定だったので、3年生に先送りをした。
- ・2回にわたる延期の為、校内行事との調整から、修学旅行を1泊2日で実施した。
- ・市教委からの指示通りに、保護者が車両を使って片道4時間で迎えに来ることができる範囲を想定して行き先を決定。

- ・中止判断について、学校長から3年生に伝え、その後学年集会、学活をもってもらった。

3 経費（キャンセル料等）等について

- ・行政の指示や財政支援が遅いと生徒に大きな絶望感と保護者に費用負担を課すことになるので、早期の指示と支援決定が必要。
- ・キャンセル料が保護者負担とならないよう、中止する時期や中止後の教育委員会への対応を校長会として行った。
- ・キャンセル料はやむを得ないと思っている。
- ・キャンセル料の負担を保護者に説明、理解してもらえるかに一番苦慮した。結果的に関修委等の精力的な働きかけもあり、JRもコロナ禍で方針を転換していただけて大変ありがたかった。
- ・中止したことで、返金する手段を現金手渡しとした。振込手数料がかかるためである。
- ・キャンセル料のシステムが現行のままでは実施は困難である。

4 保護者への対応について

- ・保護者への参加同意の確認を複数回実施した。
- ・保護者への説明会を2か月前に実施し、中止の判断の日時、中止になった場合のキャンセル料について丁寧に説明し、保護者の協力と理解に努めた。

5 代替活動について

- ・保護者、生徒から十分意見を聞いて、安全安心に配慮した上で、電車・バスなどの交通機関を使用しない代替行事に変更した。
- ・代替行事を計画するにあたり、生徒（修学旅行）実行委員を中心に、生徒の思いを尊重しながら再度、企画立案した。
- ・GoTo キャンペーンを活用し、保護者の負担を軽減した。また、代替行事の日帰りを2回行うことで3年生の学校生活にメリハリをつけることが出来た。

6 その他について

- ・実際には行けなかったが、10年後に自分たちで行うことを目標に計画させた。
- ・国の方針の表現のため、実施派と中止派の狭間で学校は苦しんだ。
- ・GoTo 支援で食事を豪華に。何かしらの支援必要。
- ・GoTo キャンペーンを利用し、様々な対策が出来た。キャンペーンのクーポンの使い方を生徒主体で計画させるなどした。
- ・GoTo 利用や市などからの補助により、旅行費が安くなったが、手続きがややこしかった。
- ・旅行会社には、変更が相次ぎ、迷惑をかけたがよく対応していただいた。

Ⅲ まとめ

2008（平成20）年度からまとめ始めたこの三地区（関東・東海・近畿）の修学旅行の実施状況調査も、今年で13年目を迎えた。毎年、回答を寄せてくれる学校数は約3,000校にのぼり、この学校数は、全国の公立中学校数の約三分の一にあたり、極めて信頼性の高い数値や内容を得ることが出来ていると言える。その背景には、三地区の各府県市町村の中学校長会がアンケートの配布や回収方法の改善を行ったり、その趣旨を丁寧に説明したりするなどの取組を積極的に進めてくれた結果に他ならない。回収率はここ数年、調査対象校の99%を超え、今年のコロナ禍の困難な状況においても96%を超えている。このような献身的な協力に、改めて、深く感謝申し上げたい。

こうして得られた調査結果は、現在の修学旅行の状況を知る上でも、また、研究活動や将来の修学旅行を展望していく上においても極めて貴重な資料である。と同時に、修学旅行に経済的な理由により参加できない生徒を一人でも減らすために、国庫補助金増額のための要請・陳情活動に欠かせないデータでもある。

通常、7月に実施している調査であるが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、11月に延期することを余儀なくされた。学校の現場では春の実施はほぼ全面的に延期又は中止となり、日程、方面の変更・調整に加えて、キャンセル料等の問題など、極めて困難な中での実施を模索せざるを得ない状況であった。そのため、これまで毎年実施してきた調査結果とは大きく異なるものとなった。

単純な前年度のとの量的な比較は意味をなさないところであるが、改めて、新型コロナウイルス感染拡大が及ぼした影響の大きさと、当たり前前を当たり前前に出来ることの有り難さを痛感させられるところでもある。

7月の時点で修学旅行を実施できた学校が殆どなく、11月から12月に延期せざるを得なくなったが、更に、12月から主要都市において第3波の感染拡大、そして、年明けの緊急事態宣言の再発令等で、11月の時点での予定回答は大きく変更が生じてしまう結果となった。

本調査の集計・考察に当っては、前述したように本来ならば、より正確なデータを収集してから実施すべきとの考え方が、寧ろ当然であると考ええる。

しかしながら、若干のデータの誤差や不正確さをさて置いても、新型コロナウイルス感染拡大の中で、学校がいかに努力を重ね、葛藤しながら実施を目指してきたかと言う、数字の向こう側に見えるものに大きな価値を見出したい。それは間違いなくこれからの修学旅行に大きな示唆を与えてくれるものである。精確な調査・考察は次年までお待ち頂けることを切に願うばかりである。

三地区の修学旅行委員会の委員の先生方、そして、各府県市町村の中学校長会の皆様方には大きな協力をいただいた。厚く感謝を申し上げるとともに、この調査報告書がこれからの修学旅行の発展・充実のために、少しでもお役に立てて頂ければ幸いである。

2020(令和2)年度調査研究報告

2020(令和2)年度 修学旅行の実施状況並びに
「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について

2021(令和3)年3月
公益財団法人 全国修学旅行研究協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8
Tel : 03-5275-6651 Fax : 03-5275-6653
E-mai shuryo@h2.dion.ne.jp
URL <http://shugakuryoko.com>